

南葵音楽文庫アカデミー 令和4年度

和歌山県立図書館は、南葵音楽文庫プレオープン(2017年)以来、文庫が所蔵する資料とコレクションの基礎を築いた徳川頼貞を中心に、さまざまな講座等を通じ、その内容、意義や魅力を紹介してきました。令和2年度からは、より広い視点から、明治以降の紀州徳川とそこに連なる人々の文化貢献をともに探り、ここ和歌山でその実際に触れる機会として南葵音楽文庫アカデミーを開講しています。

7月
夏2日(土)
13:30~15:30

※7月のみ、会場が和歌山県公館になります。お間違いないく。

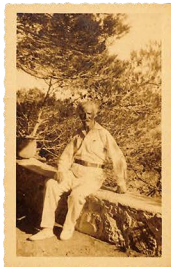
近藤秀樹「徳川侯爵交遊録～大音楽家と出会った日本人 ヴァンサン・ダンディ」

泉 健「H.ベッセラー『音楽聴の根本問題』(1925) —南葵音楽文庫所蔵の音楽雑誌より—」

3日(日)
13:30~15:30

佐々木勉「カミングス文庫研究のこれから… 写本資料と透かしの研究」

芹野与幸「音楽を通じて徳川頼貞の友人となった建築家W.M.ヴォーリス」

▲晩年のヴァンサン・ダンディ
「南葵音楽文庫紀要」第5号
62ページで紹介11月
秋19日(土)
13:30~15:30

「和歌山が伝える<南葵の記憶>」講演と報告

ミニレクチャー (11:00~11:30)

林 淑 姫 「和歌山の音楽家たち[戦前編]」

20日(日)
13:30~15:30「南葵音楽文庫重要資料報告会」令和4年度
南葵音楽文庫研究員による報告

ミニレクチャー (11:00~11:30)

美山良夫 「『赤貧、洗うがごとし』
—池永孟と徳川頼貞—」

ミニコンサート (15:30~17:00 (予定))

南葵音楽文庫サポーター、近藤秀樹

▲昨年度ミニコンサートの演奏者たち
11月20日、メディア・アート・ホール3月
春4日(土)
13:30~15:30

奥中康人「幕末維新期の和歌山における軍楽—太鼓とラッパ—」

林 淑 姫 「南葵音楽図書館「1926年度収書計画」がもたらしたもの
～田村寛貞とマックス・フリートレンダー～」

ミニレクチャー (11:00~11:30)

近藤秀樹「音楽になったスポーツ?
オネゲルの《ラグビー》を聴く」5日(日)
13:30~15:30「公開5年<和歌山の/世界の南葵音楽文庫>」
報告、ビデオと2つの鼎談

ミニレクチャー (11:00~11:30)

佐々木勉「南葵音楽文庫で学ぶ
西洋音楽史「器楽の発展」組曲」▲南葵音楽文庫プレオープン
2017年12月3日

※お問い合わせは…

和歌山県立図書館サービス課 ☎073-436-9520

※申込方法は裏面をご覧ください。

〒641-0051 和歌山市西高松1-7-38



湊御殿の歴史

紀州の城下周辺に設けられた御殿の沿革をたどりま
す。湊御殿は、和歌山城の南西方向に位置し、現在でも
町名として「湊御殿1～3丁目」が残り、ほぼ同エリア
に湊御殿がありました。また浜御殿や吹上御殿、西浜御
殿など紀州領内に18の御殿が存在していました。



湊御殿・浜御殿・吹上御殿の位置 (Google)

湊御殿を最初に造営したのは2代藩主光貞で隠居所と
して使われます。元禄11年(1698)に造営し73歳で
移り宝永2年(1705)8月8日湊御殿で亡くなります。
享年80歳でした。その後100年間くらは記録に現れ
ません。

次に現れるのが8代藩主徳川重倫の時代です。安永4
年(1775)30歳で隠居し居住。文化7年(1810)10
月31日晩七ツ時(午前4時頃)出火し湊御殿は悉皆炎
焼つまり全焼、その後重倫は浜御殿に移住します。直ち
に「御普請御用掛」が命じられ再建準備が始まります。

文化8年(1811)江戸中屋敷の火災があり湊御殿の
再建が中断しますが、文化11年(1814)6月普請が再
開し、11月22日に重倫移り住みます。70歳でした。
しかし3か月後の文化12年2月3日に再び火災で焼失し
ます。重倫は浜御殿に移り、湊御殿に戻ることなく84
歳で亡くなります。

11代藩主徳川斉順が天保3年(1832)湊村の新御殿
造営を命じ12月10日に地鎮祭を行い、天保4年
(1833)12月6日に上棟、天保5年(1834)3月26日
に御家堅め式が行われ、5月12日に移っています。

斉順は弘化3年(1846)江戸で亡くなりました。享
年46歳です。同年7月26日和歌山城が落雷で焼失して
しまいます。斉順亡き後、斉強が御三卿清水家から養子
として12代藩主に迎えられます。紀州入りは弘化5年
(1848)でした。この時に、湊御殿に能舞台や大奥数寄
屋が造営されます。しかし3年後の嘉永2年(1849)3

月1日湊御殿で亡くなります。享年30歳でした。

徳川慶福が第13代藩主を継ぎます。嘉永5年
(1852)隠居の10代治宝が西浜御殿で亡くなり、嘉永
6年(1853)藩政の中枢を和歌山城二の丸に移ることに
なります。

11代藩主斉順の時代天保4年(1833)から13代藩
主慶福の時代嘉永6年(1853)までの20年間は藩政の
中枢機関として重要な地位を占めていたことになり
ます。その後、朽廃と分散の運命をたどりますが、いく
つかの建物が移築され現在も残されています。

徳義社の湊御殿

明治10年、旧藩主(第14代)徳川茂承が和歌山に戻
り10万円を出資し義田結社を設立し、徳義社と命名し
ました。この資本で耕地を購入し、小作料収入で士族の
困窮者を救い、士族子弟の学資を支援しました。現在の
和歌山市役所北側の立体駐車場付近の和歌山市九番丁1
の富田善次郎方建物を購入し、改修して徳義社本社とし、
明治12年から活用しています。その後、事業拡大し手
狭となったため、明治24年旧湊御殿の建物の一部の払い
下げを徳川家へ申請し、徳義社の奥座敷として使われ

ます。明治
36年10月
7日 から
10日にか
けて、皇太
子(のち大
正天皇)が
宿泊されて
います。



徳義社本社

大正時代
になり、所
期の目的を
達した徳義
社は大正8
年解散し、
徳義社本社
敷地は由良
浅次郎に払
い下げられ



徳義社湊御殿

ました。徳義社の本社の表座敷は岡公園の公
会堂日本館として移築されました。奥座敷は和歌浦徳川
家別邸双青寮の大広間(湊御殿)として移築されました。

宇須の湊御殿と名草御殿

明治28年陸軍監督官中村宗則が和歌山市宇須に湊御
殿の一部を移築します。明治42年に雑賀藤吉に移り、
明治45年島村富次郎が購入し、島村家の別邸として使

われます。大正3年に朝香宮鳩彦殿下が六十一連隊中隊長として和歌山に赴任されることとなり、島村家の別邸を住まいとします。和歌山県は、島村家に移築されていた湊御殿の西に朝香宮鳩彦殿下のために和歌山工業学校職員生徒の奉仕により建物を新築しました。これが名草御殿です。朝香宮鳩彦殿下が戻られた後、建物が県から島村家に下賜されましたが由緒ある建物であることから双青寮へ移築されました。



宇須湊御殿



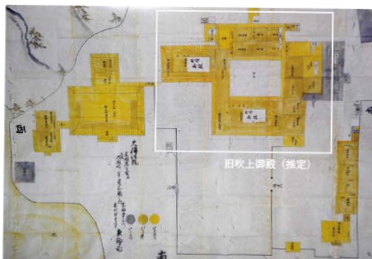
宇須名草御殿

双青寮の双青閣

和歌浦双青寮は、徳川頼宣入国300年を記念し徳川頼倫（紀州徳川第15代）が紀州徳川の別邸として創建しました。徳義社にあった奥座敷の湊御殿、さらに宇須にあった名草御殿を移築し、ここに大正9年に新たに双青閣が建てられ中庭を囲うように廻廊がむすばれていました。双青閣は、木造2階建て入母屋造り檜瓦葺き、各部屋は書院造りを基調にした品格のある造りで、周囲に縁側を設け、外側にガラス障子を立て込んでいる。双青寮の庭の風景を取込むつくりであったと思います。和歌山市の旧伝法橋の橋脚に使われていたカヤ材を大正6年の橋の架け替え時に転用し、双青閣2階奥座敷の床柱とし

て使われたと伝わります。

双青寮の所有権は、徳川頼貞（紀州徳川第16代）が手放され紀陽銀行に移ります。県が青年練成道場を設置するため双青寮を候補としていたところ昭和17年藤田勝一氏が購入し県に寄付。戦後は社会教育会館として使用され、昭和26年以降は県職員研修所となりました。維持管理の関係から昭和41年鉄筋コンクリート造の建物の建替えの検討が進む段階で、寄付者の藤田勝一氏から貴重な歴史的建造物として返還の申入れが県に行われました。双青閣は、海南市の田村友友氏が買入れ、県立自然公園の亀池の中島に移築することが決まり、昭和43年に完成し、昭和49年に吊橋が架設されました。

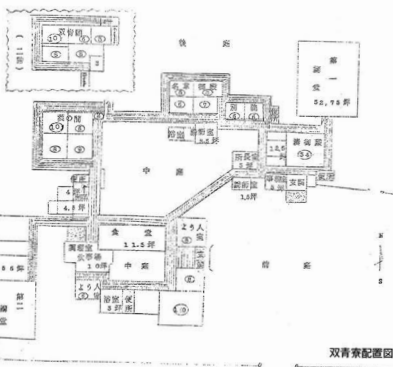


根来寺本坊図(奈良県長谷寺蔵)

根来寺の湊御殿と名草御殿

八代藩主重倫の生母清信院は、信仰心が篤く根来寺の復興に尽力します。生前居住していた吹上御殿を亡くなった後、根来寺に移築し本坊とすることを約束します。清信院は、寛政12年(1800)2月3日83歳で亡くなりました。同年移築し翌年享和元年(1801)に落成しました。その時に根来寺庭園がつくられたと思われます。長く本坊として使われましたが昭和37年5月火事により残念ながら焼失してしまいました。

双青寮の県職員研修所の建替えの話の中で、藤田勝一氏が価値ある歴史的建造物の湊御殿と名草御殿の移築先を探している中で、本坊を焼失していた根来寺が候補となり寄贈し移築が実現します。



双青寮配置図



双青閣(海南亀池)



根来寺本坊上空から見た名草御殿と湊御殿 (Google)

養翠園と湊御殿

養翠園は、山本理左衛門家の下屋敷を修築し、藩の御用地になり、幕末家老三浦家に下げ渡されました。明治21年徳川頼倫が買い戻して別邸とします。その後双青寮とともに来和の際使われましたが、昭和8年徳川頼貞が藤井家に売却し現在に至ります。

現在養翠園に移築されている湊御殿について、明治初年に和歌浦東4丁目に移築、芦辺屋別荘として活用。明治末に桃谷政次郎・順一（美顔水本舗桃谷順天館）が所有し昭和27年岡本圭弘、昭和43年に玉置整三、吉田友香子が所有し、和歌山市へ寄付され養翠園に移築されました。玄関式台側に深い庇があり、濡れ縁と畳敷の縁側が回り、縁側の先の建具に狩野派の絵師によると思われる「老人遊子図」「花鳥図」の表裏の杉戸絵が入っています。玄関の間が12畳、8畳と奥座敷8畳で床の間と床脇が設けられ、背後に4畳と6畳の二間あります。



養翠園



妹背山から見た湊御殿 (明治40年頃)

各地に残る湊御殿の遺構

和歌山市梅原貴志邸旧湊御殿 格式のある長屋門・納屋・主屋を備えた農家に明治10年に湊御殿の一部が移築されました。主屋に続き、三室が手前にあり奥に12畳の次の間と15畳の本座敷になっており、活用されています。

和歌山市鷹匠町の感応寺が慶応4年(1868)火災にあったことから湊御殿大奥御座之間を徳川家から拝領しました。数寄屋構えの座敷と次の間があり、座敷の天井には大孔雀が描かれて優雅な生活を想像させます。

湊御殿の能舞台が明治3年鶯ノ森別院に移築されましたが、昭和20年7月9日和歌山大空襲によって鶯ノ森の本堂とともに焼失してしまいました。

岩出御殿

横浜三溪園の重要文化財「臨春閣」は、岩出御殿と推測されています。紀州徳川家初代藩主頼宣が夏の別荘として岩出に建築、吉宗が幼少期に過ごした場所とも言われています。宝暦4年(1764)泉佐野の豪商食野家に譲渡され、大阪春日出新田の八洲軒と呼ばれた建物で、その後替商清海家の所有となり明治38年頃に原富太郎こと原三溪が購入、三溪園の地で大正4年から6年にかけて建築されました。

この建物を原三溪は聚楽第の一部と考え秀吉ゆかりのもの信じ、大阪では瓦葺であったものを柿葺きに葺き替え、原三溪の細かな指示によって池を配置し、建物を数寄屋風に改変しました。



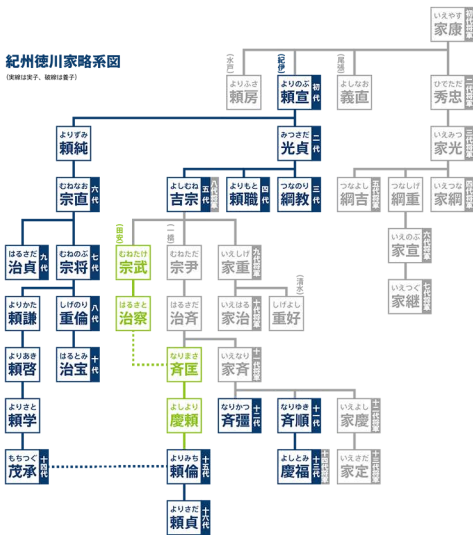
旧岩出御殿と推定されている三溪園「臨春閣」

湊御殿を始めとして江戸時代の紀州徳川家の御殿の全貌を明らかにすることはできませんが、田中敬忠先生や三尾功先生等の先人の調査・研究をもとに考察を加えてみました。

根来寺本坊の湊御殿は、湊御殿から徳義社に移築され、双青寮に移築、3回目の移築で根来寺にきたこととなります。建物に運命があることを感じます。大切だと思う人々のおかげで今私たちは残された建物を見ることができています。次の世代に引き継いでいく責任の重さを感じます。

紀州徳川家略系図

(実親は英子、後継は養子)



音楽文庫が所蔵する楽譜の再検討がありました。

調査研究と楽譜校訂を担当したのはパーセル協会会長のブルース・ウッド（ウェールズのバンガ―大学名誉教授）でした。要請に基づき、和歌山県立図書館は全ページの高精細画像を提供、彼は出版にあたり、詳細な研究を付しています。南葵音楽文庫所蔵（和歌山県立博物館保管）の筆写楽譜は、現存する3つの総譜のなかで最も古く、1770年頃にさかのぼるとし、さらにこの資料について、楽譜の写真を掲載し、価値や特徴を詳述しています。

新しい楽譜は出版社から2021年12月に県立図書館に届き、教授からは謝意を表すメールが届きました。今後、このオペラの最も信頼できる楽譜として活用されるでしょう。

南葵音楽文庫を所有する（公財）読売日本交響楽団の委託によるデジタル化の一環として、2013年9月18日に、読売清澄ビルの保管室のなかで、ドイツ製の非接触型スキャナー Book Eyell を用いてこの筆写楽譜の高精細画像を取録しました。作業チーム一同、いつの日かこの貴重な資料の画像が役立つ時がくればと願いました。10年を経ずしてその日が来るとは、まさしく望外の喜びと言うほかありません。（美山良夫）

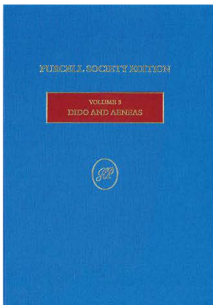
パーセル《ディドとエネアス》楽譜新版刊行

パーセル協会版のヘンリー・パーセル全集は、この音楽家による作品の最も権威ある楽譜として知られています。その第3巻は、パーセル唯一のオペラであるばかりか、イギリスのバロック・オペラの記念碑的作品である《ディドとエネアス》（1689年上演、初演はおそらく1687年）にあてられ、W.H.カミングスにより準備された楽譜は1889年に出版されました。南葵音楽文庫は、この巻をふくめオリジナルのパーセル協会版を所蔵しています。

1979年になって、新版楽譜がマーガレット・ローリー校訂により刊行されました。その際、南葵音楽文庫が所蔵するカミングス文庫に含まれる筆写楽譜は「照会したが参照できなかった資料」のひとつとして扱われていました。その後、研究の進展、新資料の発見などから、さらに新たな版の必要性が求められるようになりまし。その理由のひとつに南葵



▲パーセル《ディドとエネアス》序曲
南葵音楽文庫所蔵筆写楽譜より



▲パーセル《ディドとエネアス》
ブルースウッド校訂版
(2021年刊行)



南葵音楽文庫アカデミー [令和4年度] お申し込み方法

| 開催日 | 受付開始日 | 定員 | 会場 |
|----------------------------|-----------|-------|------------------------|
| 夏 7月2日(土), 3日(日) | 6月2日(木) | 各日40名 | 和歌山県公館 |
| 秋 11月19日(土), 20日(日) | 10月19日(水) | 各日60名 | 和歌山県立図書館(本館) 2階 講義・研修室 |
| 春 3月4日(土), 5日(日) | 2月2日(木) | 各日60名 | 和歌山県立図書館(本館) 2階 講義・研修室 |

※各日とも定員になり次第締め切ります。

※各月とも詳細を記した案内を受付開始日の約1週間前に配布するとともに、当館WEBに掲載します。

<https://www.lib.wakayama-c.ed.jp/nanki/event/academy/>



会場



和歌山県公館 洋館 (7月のみ)



和歌山県立図書館(本館) 2F 講義研修室

ミニレクチャー 11月19, 20日、3月4, 5日

事前申し込み不要です。(入り口で所定の用紙に記入願います)

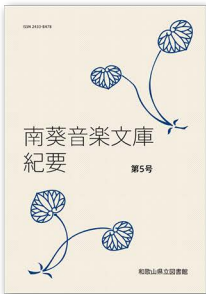
会場は和歌山県立図書館(本館) 南葵音楽文庫閲覧室

ミニコンサート 11月20日

受付開始10月19日(水) 定員120名

会場は和歌山県立図書館(本館) 2階メディア・アート・ホール

※催しはすべて無料です。なお、個人的な録音・録画はお断りいたします。



『南葵音楽文庫紀要』第5号 刊行

目次 CONTENTS

■論文・調査報告

- ・美山良夫「徳川頼貞による文化貢献の特性 —「私性」と「公共性」の幅映—
- ・佐々木勉「南葵音楽文庫収蔵「カミングス文庫」の研究(2) —W.H.カミングスとJ.L.ハットンの歌曲資料をめぐって—
- ・江本英雄「市販版『菅庭楽話』その出版、その時代」
- ・飯島正行「貴重資料の修復その心と技 —南葵音楽文庫を例にして—

■資料紹介

- ・美山良夫「ワーグナー《ローエングリン》日本初演使用楽譜」
- ・近藤秀樹「ダンディ『ゼザール・フランク』

■収蔵資料 目録と紹介

- ・林淑姬「フリートレンダー文庫 目録と解説」ほか

紀要の配付について【申し込み方法】

和歌山県立図書館・和歌山県立紀南図書館に來館し、所定の申込書に記入してください。郵送による申し込み方法は、県立図書館Web【南葵音楽文庫】→【刊行物】をご覧ください。



南葵音楽文庫ミニコンサート開催

2021年11月20日、アカデミー開催日にあわせて、南葵音楽文庫サポーター有志の企画・運営によるミニコンサートが、和歌山県立図書館2階メディア・アート・ホールで開催されました。近藤秀樹が案内役となり、徳川頼貞の少年時代から留学にかけての時期に、彼が聞いたり演奏したりした音楽をとりあげ、解説や演奏者との対談をまじえながら、地元の小学生から大学生、そしてサポーターが演奏しました。ふだんのコンサートとはことなる、頼貞や彼の著書『菅庭楽話』が身近に感じられる催しとなりました。たいへん好評で、毎年継続してほしいとの要望が寄せられました。



▲P.サラサテ「チゴイネルワイゼン」を演奏する桑原七音さん(Vn)と柴田 陽さん(Pf)

◀案内役を務める蟹井貴代さんと近藤秀樹

▲プログラム表紙

南葵文庫第6号

令和4年6月10日発行

発行所

和歌山県立図書館
〒641-0051 和歌山市高松1-7-38

編集

合同会社芸術資源研究所
〒640-8137 和歌山市吹上1-1-22 502号室

編集協力

有限会社ティアンディ・デザインラボ
〒649-2326 和歌山県西牟婁郡白浜町橋36